

「思想の秋」とエドガー・ポウ

— 1855年のボードレール —

Voilà que j'ai touché l'automne des idées (L'Ennemi)

鳥居大洋

I [1]

ボードレールが1855年に書いた万国博覧会の美術評には幾つかの奇妙な点がある。

先ず第一章に展開されている論議が著しく抽象的、一般的且つ巨視的である。ボードレールの理論癖はこの時に始まったわけではなく、これより九年前の《Salon de 1846》にも理論はふんだんにばらまかれているが、それはあくまで美術と直接の繋がりを保っており、事柄に即した具体的な分析という形をとっていた。

次に奇妙なのは、第二章ではアングルだけが、第三章ではドラクロワだけが論じられていて、他はすべて切捨てられていることである。

更に、《Salon de 1846》と比べて、ここではアングルに対する批判とドラクロワに対する賞讃とが遙かに対比を強められている。

この事情は《Exposition universelle》が新聞の依頼記事だったことを考えると尚更奇妙に思われてくる。ボードレールの最も重要な展覧会評のうち、《Salon de 1846》は単行本として発表されたものである。《Salon de 1859》は雑誌の依頼記事だが、理論家には誂えむきのこんな注文がついていた、「カタログを作るのではなく概観を、絵画の道を速足で歩く哲学的散歩のお話といったものを何か¹⁾。しかしこうして理論を開陳する為の好条件を与えられた二つの評論も《Exposition universelle》程には抽象性、一般性への露わな嗜好を見せてはいない。

ボードレールはこの記事の性格の為に依頼主の新聞社から「お払い箱」²⁾になっている。Présentez mes excuses à M. Cohen, dites-lui que c'est le dernier article consacré à un seul homme.³⁾これは第三回分の記事(アングル論)の掲

載の是非が新聞社側で問題になった時、ボードレールが知人に宛てて取りなしを頼んだ手紙である。こういう手紙を読むとボードレールがジャーナリズムの何たるかを知らなかった人の様に見えるが、事実はそうではなく、彼はその気になれば相手の意向に機敏に対処することもできた人であり、⁴⁾事後の弁明をする羽目になる前から、自分が博覧会の報告記事にふさわしくないものを書いていることぐらいは十分承知していたと思われる。しかし状況に対する鋭敏な感覚は必ずしも巧みな身の処し方を保証するわけではない。四囲の状況に適応しようとしても、いつも、もっと強固な、遙かに御し難いボードレールという状況がそれを妨げる。そして大抵の場合、*me voilà libre, mais sans le sol*,⁵⁾これが結果である。

成功作《Salon de 1846》に見られる抽象と具体との鮮やかなバランスを壊さねばならぬ外的理由は全く見当らず、事情は寧ろ逆であったと考えられるのに、ボードレールは敢てこれを壊している。そうであれば「お払い箱」の危険を冒すよう彼を促した内的理由が問われなければならないであろう。

1846年から1855年までの間に起ったボードレールの精神上の事件については、《Journaux intimes》中の有名な一句からたやすく窺うことができる、*De Maître et Edgar Poe m'ont appris à raisonner.*⁶⁾ボードレールが初めてメーストルの著作に接したのは1851年と推定されているが、これは同時に、メーストルを本格的に受け容れ始めた時期であるとしてよさそうである。というのは、既に1850年に、ボードレールは或るキリスト教思想家に強い関心を示しており、⁷⁾精神の準備はできていたと考えられる上に、早くも1852年の最初のポウ論で、ポウの生涯にメーストル風の考察を加えている箇所が見出されるからである。けれどもポウについては事はそれほど明瞭ではない。ボードレールが初めてポウを知ったのは1847年のようなのであるが、⁸⁾翌48年にポウの翻訳一篇を發表したあと、最初のポウ論を書く52年までの間、ボードレールの関心がどうなっていたのか私達は正確に掴むことができない。もしも52年のポウ論に、ポウに関する当時のボードレールの知識がすべてこめられているのであれば、この評論を書いた時のボードレールはポウの作品の少量を読んでいたにすぎないという結論が出てくるので、⁹⁾ポウとボードレールとの間の真の影響関係を1847年以来のものとするのは不可能となる。

倫理的にも文学的にも、ボードレールに最初の精神的変化の兆しが現われるのは1850年を過ぎた頃からである。50年6月《Le Magasin des familles》に発表された二篇の詩にこんな但し書が付いているのが注目される。

Ces deux morceaux inédits sont tirés d'un livre intitulé LES LIMBES, qui paraîtra très-prochainement, et qui est destiné à représenter les agitations et les mélancolies de la jeunesse moderne.¹⁰⁾

これがどんな意義をもっているかは、翌51年4月9日、ちょうどボードレール三十才の誕生日に≪Le Messager de l'Assemblée≫に十一篇の詩を発表した時、再度付けられたもう一つの但し書によって明らかである。

Ces morceaux sont tirés du livre *les Limbes*, de Charles Baudelaire, qui doit paraître prochainement chez MICHEL LÉVY, rue Vivienne, et qui est destiné à retracer l'histoire des agitations spirituelles de la jeunesse moderne.¹¹⁾

大同小異ではあるが、représenter les agitations et les mélancolies が retracer l'histoire des agitations spirituelles と改められているのを無視するわけにはいかない。retracerという動詞といい、histoireという名詞といい、この小さな違いの為に二つの但し書の意は一層鮮明に浮び上がってくるのであって、ここでボードレールは自分の中で一つの段階が終ったことを告げているのである。この年の8月26日、或る夫人のアルバムに書きつけられていた彼の言葉はもっと直截な回顧的感慨に溢れている。

À mesure que l'homme avance dans la vie, et qu'il voit les choses de plus haut, ce que le monde est convenu d'appeler la beauté perd bien de son importance, et aussi la volupté, et bien d'autres balivernes. Aux yeux désabusés et désormais clairvoyants toutes les saisons ont leur valeur, et l'hiver n'est pas la plus mauvaise ni la moins féerique. ... La plupart des jeunes gens ignorent ces choses, et ils ne les apprennent qu'à leurs dépens. Quelques-uns d'entre nous les savent aujourd'hui; mais on ne sait que pour soi seul.¹²⁾

しかし精神が変容の時を迎え、変容を強いられていることは自覚されていても、新しくとるべき姿については何の予感も得られないまま、ボードレールはいわば空白の中に落ち込んでいたらしく、8月30日母親宛の手紙では、創作上の不毛を嘆きながら重大な告白をしている。

Je suis vraiment très triste. Tu liras sans doute avec plaisir ou plutôt avec les yeux vaniteux d'une mère ce gros travail que je t'enverrai *le mois prochain*; mais après tout, c'est une méchante affaire. Tu verras quelques pages étonnantes sans doute; et le reste n'est qu'un ramas de contradictions et de divagations. Quant à l'érudition, il n'y en a que l'apparence. Et après? Après, que montrerai-je? Mon livre de poésie? Je sais qu'il y a quelques années, il aurait suffi à la réputation d'un homme. Il eût fait un tapage de tous les diables. Mais aujourd'hui, les conditions, les circonstances, tout est changé. Et si mon livre *fait long feu*, après? quoi? Le drame, le roman, l'histoire même peut-être. Mais tu ne sais pas ce que c'est que les jours de doute. Il me semble quelquefois que je suis devenu trop raisonneur et que j'ai trop lu pour concevoir quelque chose de franc et de naïf. Je suis trop savant et pas assez laborieux. Après tout, peut-être dans huit jours, serai-je plein de confiance et d'imagination? — Je pense en écrivant ceci, que pour rien au monde je ne l'avouerais devant un camarade.

最後の一句から、ボードレールの創作者としての自持が崩れようとしていたのが分るであろう。彼がここで突き当たっているのは、五年前にはずっと安易に受けとめられていた問題である。

Aujourd'hui, il faut produire beaucoup; — il faut donc aller vite; — il faut donc se hâter lentement; il faut donc que tous les coups portent, et que pas une touche ne soit inutile.

Pour écrire vite, il faut avoir beaucoup pensé, — avoir trimballé un sujet avec soi, à la promenade, au bain, au restaurant, et presque chez sa maîtresse.

E. Delacroix me disait un jour: «L'art est une chose si idéale et si fugitive, que les outils ne sont jamais assez propres, ni les moyens assez expéditifs.» Il en est de même de la littérature; — je ne suis donc pas partisan de la rature; elle trouble le miroir de la pensée.¹³⁾

自然発生性を重んずる制作方法上の信念は、ここでは批評家的気質と対立せず、制作前の思案は制作中の自然発生性の維持のむしろ要件とみなせば両者を調和させることができると、ボードレールは樂觀している。このころのボードレールは思弁的資質が才能を触む危険を十分自覚していなかったか、或いは、同じことであるが、

不十分な自覚ですますことのできる幸福な時期にあったのである。けれども事前に過度の思案をめぐらす者は行為の中で反省を捨てることもできない。才能は種類を問わず盲目的肯定性をもつ何か動物じみたものであるが、極度に人間的な過剰な反省的意識を持って生れた者が、如何にこの動物性を殺すに至るか、ボードレールは事の真の重大さを50年代に入って知らされることになったわけである。こうした反省的意識の所有は、ボードレールの少くとも詩作にとっては必ずしも不利だったとは言えないが、そういう一種の開き直りに似た自己肯定がボードレールの裡に生じてくるのはもっと後のことであって、さしあたり1851年のボードレールは反省力の強さを不利と認め、創作能力に関する深刻な悲観を洩らさなければならなかった。彼の手紙にポウの名が頻々と現われ出すのはこの頃からである。

Faites donc demander à Londres, AU PLUS VITE, ce livre si vous ne l'avez pas encore fait.

*Œuvres d'Edgar Poe, et surtout l'édition à notice nécrologique, s'il y en a une.*¹⁴⁾

ボードレールはポウの死後出版の作品集があることを何処かで耳にして慌てて発注したものらしく、息せききったような文面となっているが、これが1851年10月のことである。¹⁵⁾翌52年2月にボードレールは最初のポウ論を手がけている。¹⁶⁾接近は急速であるが、この評論についてバンディが明らかにしたことは注目すべきであって、この時ボードレールはまだ詩人及び詩論家としてのポウを全くといていい程知らず、専ら物語を通じてポウに接していたのである。¹⁷⁾この事実は私達がともすれば忘れがちなもう一つの事実と結びつけられると大きな意義を帯びてくる。死はボードレールから様々な可能性を剥ぎ取って、彼が今日私達にとってそうであるような寡作な鏤骨精練の詩人に彼を変えてしまったが、ボードレール自身は決してそうあることを望んでいたわけではなかった。バルザックのように大量に書くこと、詩ばかりでなく劇や小説で成功すること、これが生きていた当時、可能性の只中にあったボードレールの常に目指していた所である。では、ポウに近づいてゆきながら、ボードレールはポウの中に何を見出していたであらうか。

52年3月20日、政治行動への訣別を友人プーレ・マラシに宣告した手紙の中で、ボードレールはこんなことを言っている。

Mais je suis décidé à rester désormais étranger à toute la polémique humaine, et plus décidé que jamais à poursuivre le rêve supérieur de l'application de la métaphysique au roman. ... — Adieu, et persuadez-vous bien comme moi, de plus en plus, que la philosophie est *Tout*.

前年八月の自信喪失の口調は消えて、ここに表われているのは自己確信である。この確信がポウと結びついていることは、この手紙がポウ論と重複するものを含んでいることから見て間違いない。「形而上学の小説への適用」云々にはこういう箇所を対応させることができる。

On dirait qu'il cherche à appliquer à la littérature les procédés de la philosophie, et à la philosophie la méthode de l'algèbre.¹⁸⁾

従ってボードレールが形而上学を小説に適用しようとしているのはポウに倣ったことである。「哲学がすべてである」云々については、当然ここにメーストルの影を読みとることもできるであろうが、ポウ論のこういう条を対応させることもできる。

Il vint un moment où il prit toutes les choses humaines en dégoût, et où la métaphysique seule lui était de quelque chose.¹⁹⁾

ボードレールの自己確信は小説創作の夢と思弁への傾斜に支えられている。前者をポウの、後者をメーストルの影響にそれぞれ帰することができれば好都合であるが、ポウが哲学者肌の作家であったことを考えると(Poe se présente sous trois aspects: critique, poète et romancier; encore dans le romancier y a-t-il un philosophe.²⁰⁾)二人の影響を判然と切離すことはできそうもない。しかしメーストルの影響はこれを迎え入れるだけですからかも知れないが、ポウからの刺戟に対してはボードレールは能動的に反応していることを考量すると、この場合、より大きな比重はポウの側にあったと思われる。ポウ論の中から作品の特徴を論じた箇所を拾い上げてゆけば、ポウの影響下のボードレールの裡で小説創作の夢と思弁への傾斜とがどんな風に結びついていたかが理解されるであろう。

ポウの批評精神と創造性との不可思議な両立について。(この部分は盗用だが、ボードレールにとっての精神的重要性がその為に減るわけではない。)

Poe est toujours correct. C'est un fait très remarquable qu'un homme d'une imagination aussi vagabonde et aussi ambitieuse soit en même temps si amoureux des règles, et capable de studieuses analyses et de patientes recherches.²¹⁾

推理小説について。ポウの物語の展開は概ね推理小説と同質の手法によっているから、この評は少し表現を変えればポウの小説作法の根幹にふれたものとなり得る。

Je voudrais pouvoir caractériser d'une manière très brève et très sûre la littérature de Poe, car c'est une littérature toute nouvelle. Ce qui lui imprime un caractère essentiel et la distingue entre toutes, c'est, qu'on me pardonne ces mots singuliers, le conjecturisme et le probabilisme.²²⁾

自然発生性の陥りがちな悪弊について。自分の持たぬものを批判するボードレールの意気軒昂たる語勢は注目すべきである。

Un autre caractère particulier de sa littérature est qu'elle est tout à fait anti-féminine. Je m'explique. Les femmes écrivent, écrivent avec une rapidité débordante; leur cœur bavarde à la rame. Elles ne connaissent généralement ni l'art, ni la mesure, ni la logique; leur style traîne et ondoie comme leurs vêtements. Un très grand et très justement illustre écrivain, George Sand elle-même, n'a pas tout à fait, malgré sa supériorité, échappé à cette loi du tempérament; elle jette ses chefs-d'œuvre à la poste comme des lettres. Ne dit-on pas qu'elle écrit ses livres sur du papier à lettres?²³⁾

ポウの文体について。

Dans les livres d'Edgar Poe, le style est serré, *concaténé*; la mauvaise volonté du lecteur ou sa paresse ne pourront pas passer à travers les mailles de ce réseau tressé par la logique. Toutes les idées, comme des flèches obéissantes, volent au même but.²⁴⁾

ポウの作品における理念の支配について。

Dans Edgar Poe, point de pleurnicheries énervantes; mais partout, mais sans cesse l'infatigable ardeur vers l'idéal.²⁵⁾

ポウを規定するのに用いられた四つの特質、critique, poète, romancier, philosophe,のうち、当時のボードレールに欠けていたのは最後の二つである。彼は母親に向って自分を raisonneur と称し、プーレ・マラシに対しては esprit philosophique の持主であることを主張しているが、²⁶⁾ そういう方面ではポウとは比べるべくもないし、romancier としてはラ・ファンファルロ 1 篇を書いたことがあるだけの中途半端な romancier に過ぎなかった。ボードレールは自分のこの二つの弱点をポウが一まとめにしてあっさり克服していることに注目している。前出母親宛書簡から推察する限り、raisonneur であることを創作の妨げと見たボードレールには、詩作より一層の自然発生性を要求される小説の制作は尚更手の届かぬものと思われ始めていたに違いない。しかしポウの作品を前にすれば、それは要らざる悲観となる。ポウの裡では抽象と分析を好む傾向が romancier と共存しているばかりか、romancier に協力し貢献しているからである。ポウがボードレールを夢中にさせた理由の一半が、日常的合理性の枠を踏み破って魂の暗部を暴き出した心理的洞察力にあることは、最初のポウ論で最も周到に論じられているのが《黒猫》と《ベレニス》であることから知られるが、その物語が「論理によって編まれた網」と形容したくなる程、極端に明晰な意識に支えられていたということは、それに劣らぬ大きな驚きだったと思われる。ボードレールも指摘しているように、一個の philosophe を内蔵する romancier は他にもいないことはないかも知れないが、ポウの作風の理知的、抽象的性格は全く際立っていて比類がない。こんな手法があることは、ボードレールはポウ以外の誰からも教えられなかったであろうし、この例外的な事実がボードレールを勇気づけたであろう。

小説が反省によって展開を妨げられることなく、作者の内部から湧き出る自然発生的な流れに乗って進行することは、見方によっては小説に不可欠の要素となる。少くともボードレールにとってそれは羨むべき特質であり、ジョルジュ・サンドを批判しながらその豊かさには相応の評価を与えているのはその為である。しかし、raisonneur たるボードレールが自分の資質と決して相容れない自然発生性を羨んでみても不毛を打開することはできないであろう。逆に、もしポウのように、生命

の自然な発露としての展開によらず、理知的な計算によって小説を進展させることができるならば、創作に不利と見えるボードレールの資質にはこれを生かす道が拓かれるであろう。ボードレールより遙かに *raisonneur* と呼ばれるに適わしいポウが、むしろその資質を武器に、もの見事に *romancier* たり得ているのであれば、ボードレールの欠点は寧ろ *raisonneur* としての不徹底にあるとしなければならない。ポウ論に盗用された骨相学的記述から察すると、既に 1852 年には、ボードレールはポウのように書く為には何を獲得しなければならないかを見極めていたようである。

Quant au front, il était superbe, . . . mais on eût dit qu'une force intérieure débordante poussait en avant les organes de la réflexion et de la construction. Les parties auxquelles les craniologistes attribuent le sens du pittoresque n'étaient cependant pas absentes, mais elles semblaient dérangées, opprimées, coudoyées, par la tyrannie hautaine et usurpatrice de la comparaison, de la construction et de la causalité.²⁷⁾

この所見を読みながらボードレールは自分とポウを重ね合わせていたものと思われるが、ポウの場合「比較と構成と因果性」の専横が「絵画的なものの感覚」を圧迫する程であるとすれば、成功した美術批評家ボードレールの場合には、≪Salon de 1846 ≫ を読めばよく分るように、「絵画的なものの感覚」が圧倒的であって、「比較と構成と因果性」の支配はあまり見られない。比較したり、構成したり、因果関係をうち立てたりする能力がポウに遠く及ばないことをボードレールは直ちに理解したであろうし、この種の能力の大小が、ポウには旺盛な制作を可能にし、自分にはそれを不可能にしていることを（後年ふり返ってこれが原因のすべてであるとは思わなくなったにせよ）見抜いたであろう。幸いにこの欠点は矯正の可能性もっている。*raisonneur* の分化した意識は、未分化へ逆戻りして自然発生性を手に入れることはできないにしても、より一層の分化を目指すことはできるのだから。ボードレールがポウのとりわけ物語によって見出したのは、創作家としての自己の弱点を、その性質をおし進めることによって長所に変え、不毛を脱するという可能性だったのである。

無論創造は常に自然発生性に支えられているものであって、ポウできえも一見そう思われるほど人工的に創作した筈はないから、ボードレールの理知と意志による創作の夢が小説に関する限りこんな嗟嘆に行きつくのは目に見えている。

Début d'un roman, commencer un sujet n'importe où et, pour avoir envie de le finir, débiter par de très belles phrases.²⁸⁾

Commence d'abord, et puis sers-toi de la logique et de l'analyse. N'importe quelle hypothèse veut sa conclusion.²⁹⁾

Se mettre tout de suite à écrire. Je raisonne trop. Travail immédiat, même mauvais, vaut mieux que la rêverie.³⁰⁾

しかし文学者ボードレールが自己の弱点を進んで欲し、自己にみあった理論によって身をよろい、自己に対する確信を深めるのに、ポウの力が有効であったことに変わりはないし、創作の困難から抜け出そうとあがいていた当時のボードレールにはポウの物語は一つの光明と見えたであろう。raisonneurであることを嘆いた51年8月の手紙から一転して、翌年の手紙では、ボードレールはより一層のraisonneurたらんと心がけている口ぶりである。

—Tu trouveras dans cette lettre des choses qui te plairont sans doute et qui te prouveront que si je souffre encore beaucoup par certains défauts, mon esprit, au lieu de s'abêtir, grandit;³¹⁾

この手紙は愛人ジャンヌ・デュヴァルと別れる決意を告げた有名なものだが、ボードレールが列挙したその理由の中には「精神の完成」という注目すべき言葉が見出される。

Jeanne est devenue un obstacle non seulement à mon bonheur, ceci serait peu de chose; moi aussi je sais sacrifier mes plaisirs, et je l'ai prouvé; —mais encore au perfectionnement de mon esprit.

同年4月18日付の別の手紙からは、ボードレールがポール・ロワイヤルの幾何学の教科書を読んでいたことがピショワによって考証されている³²⁾。こうした事柄をポウとメーストルの何れと結びつけるべきか、その明確な判定は又しても困難であるが、ちょうどポウに示唆を受けてボードレールが「形而上学の小説への適用とい

う高尚な夢」を紡いでいた時期のことであれば、手紙の内容をポウと無関係と見ることには無理があると言わなければならない。

上来の事情をボードレール自身は後年こんな風に回想している。

… en 1846 ou 47, j'eus connaissance de quelques fragments d'Edgar Poe; j'éprouvai une commotion singulière; ses œuvres complètes n'ayant été rassemblées qu'après sa mort en une édition unique, j'eus la patience de me lier avec des Américains vivant à Paris pour leur emprunter des collections de journaux qui avaient été dirigés par Poe. Et alors je trouvai, croyez-moi, si vous voulez, des poèmes et des nouvelles dont j'avais eu la pensée, mais vague et confuse, mal ordonnée, et que Poe avait su combiner et mener à la perfection. Telle fut l'origine de mon enthousiasme et de ma longue patience.³³⁾

自分の魂の裡に感知される豊饒な渾沌と呼応するものが、ポウの手によって秩序ある表現へともたらされているのを見出した時から、ボードレールにとってポウはかくあるべきボードレールとなったというのだが、細部にこだわりさえしなければ、この手紙の言葉は信じてよいであろう。

しかし「精神の完成」の為にボードレールがどれだけの事を実行したのか、詳細は結局明らかでない。「形而上学を小説に適用するという夢」を果していつまで持ち続けたのかも分らない。実質上52年から始まったポウの翻訳は、ボードレールに対し「夢」の実現の代償となることによって、結果的には却って「夢」の実現から彼を遠ざけたのではないかと思われる。おそらくボードレールは、意識するとしなにかかわらず、創作の辛苦を採るよりは、「自分自身の作品だと自分にも思われるほど」³⁴⁾ポウの作品を消化しながら、自分の中に潜在すると彼が信ずるポウを育て上げる方へ次第に傾いていったのであろう。ボードレールの言葉を信ずるならば、ポウの作品は本来自身で書くべき作品のようなものであり、そうである以上、ポウを翻訳することは本来自身で行うべき創造をポウを藉りて体験することに外ならなかったとも言えるからである。そうして、彼の翻訳はいかにもそれにふさわしい。ボードレールの訳文は作品をすみずみまで理解した上でなお原文の形式や語の含蓄まで保存しようとする執拗な意志によって貫かれており、その成果である見事な直訳体は、ボードレールが、「漠として混乱し、秩序立っていない」自分の内面に、自分の母国語で、ポウに倣った明確な形を与えなければ気がすまなかったことを証明している。これほどの訳業であれば十分それ自体で訳者にとっては精神の鍊

磨の一つの機会であって、彼の翻訳が創作の幻覚にすぎず、彼の本来の目的が果されず終いになったとしても、そこからは副産物として知的成長という現実の収穫が生れなかった筈はないのである。

[ii]

ボードレールの散文を年代を追って読んでゆくと、大量のポウの翻訳を果したあと、文章が一挙に緊密になっているのに私達は驚かされる。その幕開けであり、且つその為に変化の最も極端な例となったのが《Exposition universelle》である。《Salon de 1846》では理論が開陳される箇所でも、或いはそういう箇所ほど、論理的連関は比較的緩やかで屢々アフォリズムの羅列という形をとっていたのが、《Exposition universelle》では緊密の度が過ぎて殆んど息苦しさを感じさせるほど論理の非常な粘着性が文章全体を蔽っており、これに応じて文の息の長さも《Salon de 1846》とは格段に異なる。こういう特徴がポウの著作のいたる所に露わに見られるものであることを思い浮べると、この評論にはポウ的なものの強い支配が行き互っていると考えてよいであろう。

《Exposition universelle》は《Salon de 1846》と同じく批評に関する論議から始まるが、その表題が「批評の方法」であるということは、《Salon de 1846》の第一章「批評は何の役に立つか」と比べて示唆的である。二つの題の相違は二つの評論の根本的な相違を集約しているように見える。1846年の評論では、批評という営為はただ価値を生み出す働きとしてしかとらえられていなかった。批評家ボードレールは、稔り豊かな結果をもたらそうとして、批評のいわば実利的側面に關心を奪われてしまっており、作品を前にして思索をめぐらすこと自体についての思索、つまり批評についての方法意識などは、これを持とうとする意欲も、それにふさわしい内省力も見出されない。しかし《Exposition universelle》では、ボードレールの眼は批評を行いつつある精神の過程そのものに向けられていて、精神が精神自体を関心事として動くさまがそこに見られる。pour être juste, c'est-à-dire pour avoir sa raison d'être, la critique doit être partielle, passionnée, politique.³⁵⁾ 46年にはこう語っていた批評家が55年にはこんなことを言う, mon esprit jouit maintenant d'une plus abondante impartialité.³⁶⁾ボードレールは効果をみざす啓蒙活動から、それ自体を目的とする内省へ転じたのである。実利的認識から観照的

認識へのこの移行が、反省のたがを嵌められた文を緊密に連鎖したポウ風の文体を必要とした、或いは逆に、そういう文体を持ち得た為にこの移行が可能になったと言ってもよいが、いずれにしろボードレールがポウから獲得した影響が一面で散文の表現力の増大という形をとって現われていることに注意すべきであって、自己に密着しつつ深みへ深みへと降りてゆく精神の運動はボードレールには生来のものだったに違いないが、人も知る自己分析の偏執狂的愛好者であり、その達人だったポウの媒介がなく、ポウの翻訳という精神的試練を経ていなかったならば、ボードレール生来の傾向が精神の明確な分節に達し得たかどうかは疑わしい。

quelque délicate et difficile à exprimer que soit mon idée, je ne désespère pas d'y réussir.³⁷⁾

ボードレールはここでは堂々たる自負を表明してそれを実行してみせているが、三年前のポウ論については友人のプーレ・マラシから esprit philosophique の欠如を突かれ、次のポウ論の出来栄を約束しながら苦しい弁明をしなければならなかったのである。³⁸⁾

しかし三年の間にポウがもたらしたものはこれだけではなかった。冒頭の一句は、もっと深い処までポウがボードレールの中に食い込んでいたことを暗示している。

Il est peu d'occupations aussi intéressantes, aussi attachantes, aussi pleines de surprises et de révélations pour un critique, pour un rêveur dont l'esprit est tourné à la généralisation aussi bien qu'à l'étude des détails, et, pour mieux dire encore, à l'idée d'ordre et de hiérarchie universelle, que la comparaison des nations et de leurs produits respectifs.³⁹⁾

この調子の重々しさと、この一句が最初の段落の超俗的思想を語り出す為の前口上となっていること、及び語の二三の類似から推して、ボードレールには恐らくポウの《ユリーカ》の冒頭の部分が意識されていたものと思われる。ポウは献呈の辞から始めているが、それはこんな調子を帯びたものである。

A ceux-là, si rares, qui m'aiment et que j'aime;—à ceux qui sentent plutôt qu'à ceux qui pensent;—aux rêveurs et à ceux qui ont mis leur foi dans les rêves comme dans les seules réalités,—j'offre ce Livre de

*Vérités, non pas spécialement pour son caractère Véristique, mais à cause de la Beauté qui abonde dans sa Vérité, et qui confirme son caractère véridique.*⁴⁰⁾

ポウによると、科学者達は想像力とか形而上学的感覚と呼ぶべきものを欠いている為に、個々の問題に関わるばかりで、宇宙の全体像を把握しようとする試みとは無縁であるが、彼自身は、詩人の精神的特質を発揮することによって、統一的宇宙論を展開してみせることができるという。学者達と自分とのこの精神的相違を説明する為にポウは一つの比喩をもち出している。

Celui qui du sommet de l'Etna promène à loisir ses yeux autour de lui, est principalement affecté par l'*étendue* et par la *diversité* du tableau. Ce ne serait qu'en pirouettant rapidement sur son talon qu'il pourrait se flatter de saisir le panorama dans sa sublime *unité*.⁴¹⁾

ポウの *pirouetter sur son talon* と *saisir le panorama dans sa sublime unité* とは一体となってボードレールの *l'esprit est tourné à la généralisation* に、*affecté par l'étendue* et par la *diversité* du tableau は *l'esprit est tourné à l'étude des détails* に、それぞれ相当するであろうし、ボードレールが自分を *rêveur* と規定したのは、ポウが献辞の中で《ユリーカ》にふさわしい読者を *rêveurs* と名づけたのと呼応するであろう。

ボードレールがこの頃《ユリーカ》をどの程度読んでいたか、特にその科学的内容がどこまで彼に理解されていたかは知ることができない。ただ理解しようという彼の真剣な意欲がサント・ブーヴ宛書簡から窺われるだけである。⁴²⁾ しかし精神の根本的な姿勢について言うならば、1855年のボードレールが、ポウに同調して修辭的同化を図るのにふさわしくなかったとはいえない。1852年、まだ《ユリーカ》を全く知らなかったと推定されるころ、彼が物語のポウを把えた時、既にそこには《ユリーカ》のポウを予知するような表現が使われていたからである。

Il a, comme les conquérants et les philosophes, une entraînante aspiration vers l'unité; il assimile les choses morales aux choses physiques.⁴³⁾

爾來数年 *esprit philosophique* の涵養に努めてきたボードレールの裡で、自己の思想に強い統一性を与えようという野心が燃えていたとしても不思議はないであろう。

《*Exposition universelle*》はこの知的野心によって刻印を打たれている。豊かな多様性に比べて思想的統一性に乏しい《*Salon de 1846*》風のもので、ボードレールは誰よりも先ず自分自身に拒んだのであり、万国博覧会の美術部門の論評という仕事の性質がサロン評よりもっと網羅的であることを要してはいても、そんな外的条件は無視し去って、ただ内面の要請に従ってポウに倣い、ポウに恥じないものを書くことだけを心がけたのである。万国博覧会という恰好の機会をとらえたボードレールは、宇宙全体の統一的把握を企てたポウに擬して、自然と人間を含む世界全体の統一的把握を目ざす一人の「夢想家」となり、恐ろしく巨視的且つ抽象的に語る。同時に、統一性への執着は評論の構成自体に反映し、第二章と第三章でそれぞれアングルとドラクロワだけが論じられるという異例の集中的な対象の選択となった。更に、ドラクロワ論が《*Salon de 1846*》との文体上の連続を感じさせるのに、アングル論がこの時期に初めて身につけた文体で書かれているのを見ても分るように、新しい文体によって自己を自律的に屹立させる術を知ったボードレールは、最早《*Salon de 1846*》でそうしたように、対象の許に赴き、対象に即して語ることをせず、対象を裁断するような態度でアングルに過激な批判を加えたのである。

II

私達は《*Exposition universelle*》の形式的特徴がボードレールに対して持っている内面的意味によりやく到達したわけであるが、ここに至るまでのボードレールの刻苦を想像すると、当然この新しい形式には相応の新しい思想が盛り込まれているものと期待される。

しかしこの評論の内容を検討するに当って、私達は二つの問題を除外しなければならない。その二つとは *correspondance* と *imagination* に関わる思想である。この方面におけるボードレール研究は、これまでポウの影響を過小評価してきたことも手伝って諸説紛々の有様であり、これを論ずるには独立した機会を得て、且つ少くとも 1859 年までのボードレールを考察の対象としなければならないからである。

従って、この二つの思想の何れに於ても基礎的觀念の役割を果している筈の *unité* にも私達はふれることができない。更にこの *unité* がポウの《ユリーカ》及び十八世紀後半から十九世紀初頭の生物学理論に対して持っているかも知れない関係についても此処ではふれないことにする。⁴⁴⁾ 結果として論点はずいぶん狭められるが、その代り私達はそういう思想の根底を流れるもっと生々しい思想に出会うであろう。

最初の段落については様々な研究者から実に様々な思想家の影響が指摘されているが、全体の論理的構成を注視して読むと、私達の目を惹くのはこんな部分である。

*certaines nations—vastes animaux dont l'organisme est adéquat à leur milieu,—*⁴⁵⁾

人間を動物に比する視点、及び環境への適応という觀念、この二つが次の段落と直接に結びついた、いわば結節点である。

第二段落は支那の美術品をきっかけに展開される後半部が要点となっている。

*c'est un échantillon de la beauté universelle; mais il faut, pour qu'il soit compris, que le critique, le spectateur opère en lui-même une transformation qui tient du mystère, et que, par un phénomène de la volonté agissant sur l'imagination, il apprenne de lui-même à participer au milieu qui a donne naissance à cette floraison insolite. Peu d'hommes ont,—au complet,—cette grâce divine du cosmopolitisme; mais tous peuvent l'acquérir à des degrés divers. Les mieux doués à cet égard sont ces voyageurs solitaires qui ont vécu pendant des années au fond des bois, au milieu des vertigineuses prairies, sans autre compagnon que leur fusil, contemplant, disséquant, écrivant. Aucun voile scolaire, aucun paradoxe universitaire, aucune utopie pédagogique, ne se sont interposés entre eux et la complexe vérité. Ils savent l'admirable, l'immortel, l'inévitable rapport entre la forme et la fonction. Ils ne critiquent pas, ceux-là: ils contemplent, ils étudient.*⁴⁶⁾

注目されるのは、動物の形態から機能への微妙な回路に通暁することと、美の表現様式と環境との関連を把握する能力とが等置されていることである。この等置関係は一見不可解であり、次の段落と重ね合せなければ、その有する意味は明らかにならない。もう一つ、ボードレールがここで *disséquant* という語を使っているのは

注意を要する。事が形態と機能との関連の静的な把握に限られるならば、必ずしも解剖は必要でなく、細心な観察があれば足りるのだから、ここで彼の念頭にあるのは、異った環境の下で異った形態をもつ動物を解剖して比較し、そこに同一型からの変化、つまり適応の痕跡を見出す場合である。こう考えて始めてこの段落から次段への移行が理解されるものとなる。ボードレールはこの適応的変化の観念を次の段落で人間に適用し、同種の動物の異った環境への適応と、同一人物の異った環境の下での内的変化とを並行させてとらえるのである。

Si, au lieu d'un pédagogue, je prends un homme du monde, un intelligent, et si je le transporte dans une contrée lointaine, je suis sûr que, si les étonnements du débarquement sont grands, si l'accoutumance est plus ou moins longue, plus ou moins laborieuse, la sympathie sera tôt ou tard si vive, si pénétrante, qu'elle créera en lui un monde nouveau d'idées, monde qui fera partie intégrante de lui-même, et qui l'accompagnera, sous la forme de souvenirs, jusqu'à la mort. Ces formes de bâtiments, qui contrariaient d'abord son œil académique (tout peuple est académique en jugeant les autres, tout peuple est barbare quand il est jugé), ces végétaux inquiétants pour sa mémoire chargée des souvenirs natals, ces femmes et ces hommes dont les muscles ne vibrent pas suivant l'allure classique de son pays, dont la démarche n'est pas cadencée selon le rythme accoutumé, dont le regard n'est pas projeté avec le même magnétisme, ces odeurs qui ne sont plus celles du boudoir maternel, ces fleurs mystérieuses dont la couleur profonde entre dans l'œil despotiquement, pendant que leur forme taquine le regard, ces fruits dont le goût trompe et déplace les sens, et révèle au palais des idées qui appartiennent à l'odorat, tout ce monde d'harmonies nouvelles entrera lentement en lui, le pénétrera patiemment, comme la vapeur d'une étuve aromatisée; toute cette vitalité inconnue sera ajoutée à sa vitalité propre; quelques milliers d'idées et de sensations enrichiront son dictionnaire de mortel, et même il est possible que, dépassant la mesure et transformant la justice en révolte, il fasse comme le Sicambre converti, qu'il brûle ce qu'il avait adoré, et qu'il adore ce qu'il avait brûlé.⁴⁷⁾

ここまで読むと、ボードレールが三つの段落を通じて大胆な思想を語っていることが分る。相互の論理的連関を勘考すれば、それはこんな風に要約されるであろう。自然的環境は動物体の裡に滲透し、動物体はこれに呼応して己れを変化させてゆく。この過程で動物体の裡には環境と内的生命との相互滲透の場が生ずるが、これが適

応現象であり、この場の外的顕現が形態に外ならない。そして、ボードレールによれば、人間という動物にあっては、環境と生命との相互滲透の場は感覚や更には観念等の世界であり、美の様式はその外的顕現であって、他の動物における形態にほぼ相当する。(これは人間を降格させているのではない。ボードレールは形態に精神性の発露を認めており、最初の段落には *des formes plus ou moins spirituelles*⁴⁸⁾ という表現が見られる。⁴⁹⁾従って、形態を見て生体内部に発する適応の変化を推察できるほどの者であれば、見なれぬ美の様式を見て、それを生んだ人間の感覚や観念を我がものとし (*participer au milieu*)、眼前の対象が紛れもない美的表現意欲の所産であることを理解し得るのである。

美の様式のこの思い切った相対化は、美と生の結びつきの強調を伴っている。続く四つの段落でボードレールは美と生の接点に身を置いて美学を攻撃するが、その意を汲んで彼の論難を一言でいうならば、学的体系は常に体系化された過去にすぎぬために、生命が新しく生み出すものに対して何ら説明能力を持たないということである。生命は美を産み出す潜勢力として不断に運動して止まず、その発現に関しては予見不可能性に満ちている。従って、美学の体系によって美を判定しようとするのは、完結したものによって生成するものを、過去によって現在を圧殺することに等しい。

ボードレールはここでは徹底して現在の意識を重んじている。同時代性の重視ということであれば ≪*Salon de 1846*≫にも説かれていたが、それも専ら画題に関してであり、せいぜい伝統の形骸化に対する警鐘にすぎなかった。しかしこの評論では、現在の重視はやがて生の一回性の鋭い意識となり、殆んど伝統の否定ととられかねない言葉が吐かれるに至るのである。

Dans l'ordre poétique et artistique, tout révélateur a rarement un précurseur. Toute floraison est spontanée, individuelle. Signorelli était-il vraiment le générateur de Michel-Ange? Est-ce que Péruugin contenait Raphaël? L'artiste ne relève que de lui-même. Il ne promet aux siècles à venir que ses propres œuvres. Il ne cautionne que lui-même. Il meurt sans enfants. Il a été *son roi, son prêtre et son Dieu*.⁵⁰⁾

この態度は自然の重視及び歴史の軽視と結びついている。1846年には、西欧文明の内部から、特定の歴史的時点に地歩を占める人間として語っていた彼が、ここでは西欧文明の外に立ってこれを相対化し、文明の盛衰に思いをめぐらし、しかも

この歴史的過程を生命力の移動という自然的動因を用いて説明する。ボードレールがこれほど一貫して人間を自然の中に据え、自然の側から考察しようとしたことはかつてなかった。

Ⅲ

《Exposition universelle》を書き起すに際して、ボードレールがポウの《ユリーカ》を模倣したのは気取りでも気まぐれでもなかったことが今では一層よく理解される。ポウにとっては、人間の歴史などは、自然の因果に統べられる宇宙の闇の無時間性の中で、束の間点滅するだけの微弱な光にすぎなかった。ボードレールも亦能う限り遠くから、まるで歴史の外にとび出してしまったもののように、人間を眺めようとしている。

Quoiqu'il y ait dans la nature des plantes plus ou moins saintes, des formes plus ou moins spirituelles, des animaux plus ou moins sacrés, et qu'il soit légitime de conclure, d'après les instigations de l'immense analogie universelle, que certaines nations—vastes animaux dont l'organisme est adéquat à leur milieu,—aient été préparées et éduquées par la Providence pour un but déterminé, but plus ou moins élevé, plus ou moins rapproché du ciel,—je ne veux pas faire ici autre chose qu'affirmer leur égale utilité aux yeux de CELUI qui est indéfinissable, et le miraculeux secours qu'elles se prêtent dans l'harmonie de l'univers.⁵¹⁾

人間的なものにしなやかに触れてゆく感性の持主としては、これは異様な変化といえるが、この「広大な観想」が「書物によるよりは遙かに孤独によって」得られると付け加えることをボードレールは忘れなかった。⁵²⁾ ここにも、ポウの場合と同様、人間的体験の裏打ちは欠けてはいなかったのである。

これまで私達はポウからの知的刺戟に専ら目を向けてきたが、ボードレールのポウへの共感が文学からも思想からもみ出るものを含んでいたことを、ここで思い出しておかねばならない。

Comprends-tu maintenant, pourquoi, au milieu de l'affreuse solitude

qui m'environne, j'ai si bien compris le génie d'Edgar Poe, et pourquoi j'ai si bien écrit son abominable vie?⁵³⁾

ボードレールの孤絶はちょうどポウの翻訳を始めた1852年ごろから始まっているが、人間世界から一步退いたような境地へと追い込まれたことは、彼に一つの知的展望を開き、その結果、人間とそれを取り巻く世界との包括的連関が洞察されるようになったものと思われる。

他方、彼はこの孤絶の中で、それまでの自身の生涯を省察し始めたようである。

— En somme, je crois que ma vie a été damnée dès le commencement, et qu'elle l'est pour toujours.⁵⁴⁾

《Exposition universelle》で青年時の南島旅行の精神的影響が考察されているのは、そういう省察の純然たる知的な側面が取り入れられたものであろう。

ポウに最も打ち込んだこの時期のボードレールにとって、生は認識の対象となってしまっていたのである。

この体験は理智の錬磨に大きく貢献したが、ボードレールの感性にとってはかなりの苦痛だったらしく、ポウの文学の特徴を評するのに使われたこんな表現にそれが窺われる。

L'air est raréfié dans cette littérature comme dans un laboratoire.⁵⁵⁾

ボードレールはポウに対しては批判を差し控えているが、三年後にはアングルを攻撃するのにこれと同種の表現を用いている。

Cette impression, difficile à caractériser, . . . fait penser vaguement, involontairement, aux défaillances causées par l'air raréfié, par l'atmosphère d'un laboratoire de chimie.⁵⁶⁾

どちらの場合も、指摘されているのは生との接触感の欠如に外ならない。

《Exposition universelle》を書いた時、ボードレールが生に対して保っていた関係は甚だ微妙なものである。美と生の結びつきを彼は以前より一層深いところか

ら力をこめて強調し、美学と美の術学者達を批判した。

sophistes trop fiers qui ont pris leur science dans les livres.⁵⁷⁾

たしかに彼自身の理論は生に根ざしているが、それは彼が殆んど生と引き換えに理論を手に入れたからである。

je me suis contenté de sentir; je suis revenu chercher un asile dans l'impeccable naïveté.⁵⁸⁾

ボードレールは感じることに満足してなどいない。感じるという生の直覚的認識からこの時ほど彼が遠ざかったことはなかった。満足するどころか、この認識の発生の機構を明らめようとして、ボードレールはこれに分析のメスを加えている。ただ、私達に最も身近なものが最も分析し難いものであることを考えてみれば、素朴な生からのこの疎隔は、美と生の接点を探り、美の領域で生を擁護する為に、ボードレールが辿らねばならなかった不可避の逆説的迂路であったことは忘れてはならないであろう。

この時期のボードレールの生からの疎隔と、それに比例した観念の欲求の著しい肥大とは、サバチエ夫人との恋愛事件に端的に表現されている。この俗にいうプラトニック・ラヴは、ただ自分の抱く愛の観念に仕えるばかりで、現実の対象には目もくれようとしなかったボードレールの内閉性を鮮かに証明しているからである。彼は自分の生が追い込まれているこの事態を見誤りはしなかった。

Je ne te connais bien en réalité que depuis que ma raison s'est fortifiée, c'est-à-dire depuis peu d'années. Mais mon caractère s'est aigri en même temps, et [c'est] ce qui altère quelquefois mon langage.⁵⁹⁾

彼の感性は一時的にやや潤いを失い、とげとげしくなった批評家ボードレールは、観念の欲求にまかせて書いた恐ろしく高尚な記事に続いて、辛辣なアングル論を新聞社に送り、「お払い箱」の憂き目にあう。しかしその間にも、めぐってきた「思想の秋」の中では、思想的成熟という果実が確かな手つきによって摘まれていたのである。

註

この註で用いられる略号は以下のとおり。

- BB Baudelaire: Edgar Allan Poe: sa vie et ses ouvrages, edited by W. T. Bandy. University of Toronto Press, 1973.
BI Baudelaire: Œuvres Complètes, pléiade 1975, tome 1.
BII " " tome 2.

なお書簡の引用はすべて以下に拠る。

Baudelaire: Correspondance, pléiade 1973.

- 1) BII p608
- 2) lettre à François Buloz 13 juin 1855.
- 3) 9 juin 1855. 宛名不詳。
- 4) lettre à Eugène Pelletan, 17 mars 1854, はその一例である。
- 5) 註2) 参照。
- 6) BI p669
- 7) lettre à Jean Wallon, 2 août 1850, 参照。
- 8) BB introduction p. XV 参照。
- 9) BB introduction 参照。
- 10) Les Fleurs du Mal, édition Crépet–Blin–Pichois, José Corti 1968, p 535.
- 11) *ibid.* p 536.
- 12) BI p709.
- 13) Conseils aux jeunes littérateurs, Des méthodes de composition.
- 14) 15 octobre 1851. 宛名不明。
- 15) この時には此の作品集の入手は成らなかつた。BB. introduction p.xxiv 及び p. xxxvii 参照。
- 16) lettre à un correcteur de l'Imprimerie Pilet, 22 février 1852, 参照。
- 17) BB. introduction p. xxxiii 参照。
- 18) BB. p34. (BII p283)
- 19) BB. p22 (BII p270)

- 20) BB. p24 (BII p272)
- 21) BB. p25 (BII p273)
- 22) BB. p27 (BII p275)
- 23) BB. pp33~34 (BII pp282~283)
- 24) BB. p34 (BII p283)
- 25) BB. p34 (BII p283)
- 26) lettre, 16 décembre 1853, 参照。
- 27) BB. p21 (BII pp268~269) ボードレールは常々骨相学に興味を抱いていたので、この盗用には精神的意義を認めるべきであろう。
- 28) Fusées XIV.
- 29) Hygiène III.
- 30) *ibid*, VI.
- 31) A sa mère, 27 mars 1852.
- 32) Baudelaire, études et témoignages, Baconnière. pp122~124.
- 33) lettre à Armand Fraisse, 18 février 1860.
- 34) Pierre Dupont [I]. BI p36.
- 35) BII p418.
- 36) BII p578.
- 37) BII p578.
- 38) lettre à Poulet-Malassis, 16 décembre 1853, 参照。
- 39) BII p575.
- 40) édition Conard, p9.
- 41) *ibid*, p12.
- 42) 26 mars 1856.
- 43) BB. p34 (BII p283)
- 44) ここに言う *unité* は「ユリーカ」引用文中のそれとは直接のつながりはない。
- 45) BII p575.
- 46) BII p576.
- 47) BII pp576~577.
- 48) BII p575.
- 49) この表現と有名なデノワイエ宛書簡(1853, 4年ごろ)との関係については、
F. W. Leakey: Baudelaire and Nature, Manchester University Press,

1966, 特にその第四章を参照。

- 50) BII p581.
- 51) BII p575.
- 52) BII pp575~576.
- 53) lettre à sa mère, 26 mars 1853.
- 54) lettre à sa mère, 4 décembre 1854.
- 55) BB. p34 (BII p283)
- 56) BII p585.
- 57) BII p578.
- 58) BII p578.
- 59) lettre à sa mère, [26] décembre 1853.